



OSSAJのご紹介

第112回スクエアfreeセミナー
Webピッチ

2020年6月25日

橋本明彦

NPO法人オープンソース
ソフトウェア協会

ご挨拶



日頃より、NPO法人オープンソースソフトウェア協会(OSSAJ)の活動をご支援下さりまして大変ありがとうございます。

OSSAJは6月から新しい体制になりました。
ご挨拶方々活動のご紹介をさせていただきます。

6月からの新体制



役員(登記手続き中)

会長	橋本明彦
副会長	杉田義明
副会長	湯澤一比古
事務局長	大釜秀作

OSSに想いを寄せて



- ご挨拶文
 - https://www.ossaj.org/?page_id=940

オープンソースの歴史



- 1985年

- リチャード・ストールマン
- ソフトウェアの「4つの自由」
- フリー・ソフトウェア・ファウンデーション (FSF)

オープンソースの歴史



● 1998年

- エリック・レイモンドとブルース・ペレンズ
- オープンソースの10原則
- オープンソース・ソフトウェア・イニシアチブ (OSI)

● 2004年

- 当協会創立

4つの自由



- 成立の背景
 - コンピュータの力を自分たちの手に取り戻したいという気持ち
 - コンピュータが広まり始めた早い時期に
 - コンピュータの力を制御できなくなる恐れを感じた
- ソフトウェアの開発や流通にこれまでになかった考え方が必要

ソースコードの公開



- 「4つの自由」の帰結のひとつ
- あらゆるソースコードを公開すべきと言っているのではない
- インターネットを通じての無料ダウンロードが必須というわけではない

オープンソースの10原則



- 成立の背景
 - IT技術の高度化
 - インターネットの発展・普及
 - 複雑化し相互の関係が見通しにくくなったソフトウェア
 - 開発のあり方が問い直される
- ソースコードの公開を重要な要素とした整理にたどり着いた

オープンソース以前にも



- Netlib

- パブリック・ドメイン
- 機械学習に不可欠なBLASライブラリを含む

- RFC

- IETFは Running Code を重視
- 複数の検証可能な実装を求める

オープンソースが支えるIT



- 現在のIT技術を支えている部分でソースコードの共有が前提に

オープンソースとビジネス



- ソースコードを公開するという考え方
 - 必ずしも多数派ではないが
 - 商用・非商用を含め
- ソフトウェア開発で選択肢の一つとして存在

21世紀も1/5が過ぎ



- 幾度となく社会が危機に遭う
 - 東日本大震災
 - 度々の風水害
 - 今回のコロナ禍など
- 無線通信を取り込んだ常に何処からでも利用できる
- 基盤としてのソフトウェアの役割が急激に高まる

ソフトウェアで課題解決



- 顕在化する社会課題に向き合うコミュニティ・個人がソフトウェアを開発
 - 東日本大震災の際の情報共有基盤
 - 自治体のコロナ情報提供サイト
- 広く一般市民の目に触れるようになったサービスも

課題解決とオープンソース



- 社会課題解決を進めるためには
 - ソフトウェアをより早く開発し
 - 質を高めていかなければならない
 - 成果は多くの現場に適用
- ソースコードを公開し開発コミュニティの形成を目指す
- オープンソースの考え方に共感しそれを実践

オープンソースという理念



- 時を経る中で様々な想いが込められ、成長してきた
- コロナ禍以降、これまでとは異なる厳しさのある社会が待っている
- ソフトウェアの力を自分たちのために活かしていく道
- オープンソースの理念を皆さんにお伝えし共有していく

今年度の活動



- ミニセミナー
 - 3～4回開催
 - 次は9月にオンライン開催を準備中
- 過去の開催実績
 - 主催セミナー
 - <https://www.ossaj.org/archives/category/sponsored-activity>

団体概要



- NPO法人オープンソースソフトウェア協会
 - <https://www.ossaj.org/>
- お問い合わせ
 - <https://www.ossaj.org/enquiry>
- 一般会員は議決権はありませんが会費無料です



Acknowledgment



このプレゼンテーションは、以下の環境で作成されました。

- Rabbit 3.0.0
- ruby 2.5.1p57
- Ubuntu 18.04 LTS
- VcXsrv 1.20.8.1
- WSL1

